

# 平成29年度 東京都 児童・生徒の学力向上を図るための調査

実施日 : 平成29年7月6日 (木)

対象学年 : 5年生

## ● 観点別結果分析

<p>読み解く力 学校平均 都平均 65.4% 66.3%</p>	<p>読み解く力とは、文章や図表等から必要な情報を正確に取り出し、比較・関連付けて読みとり、その意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力である。</p> <p>この調査全体における本校児童の正答率は、64.3%であり、都の平均65.1%を0.8%下回る結果であった。教科別に見ると、国語は2.7%、社会は0.7%、算数は0.4%、理科は0.9%都の平均を下回った。観点別に見ると、取り出す力は0.1%上回ったものの、読み取る力は2.1%、解決する力は、0.6%都の平均を下回る結果であった。</p> <p>多くの観点において都の平均を下回っているが、その中でも、特に、国語の取り出しの正答率が低い結果となった。国語の取り出す力をつけるために、主語と述語の関係や、文と文の接続関係を正確に読み取らせ、論の展開を理解した読みの指導を図る。</p>
<p>取り出す力 学校全体 都平均 79.2%</p>	<p>取り出す力とは、必要な情報を正確に取り出す力である。</p> <p>取り出す力についての本校の児童の平均正答率は、79.3%で、都の平均正答率を0.1%上回った。教科別にみると、都の平均正答率を社会では1.4%、算数では3.6%、上回る結果であった。しかし、国語では4.4%、理科では0.3%下回った。国語の平均正答率がその他の教科に比べて低い要因として、主語が何で、どんなことを聞かれているのか整理し、多くの情報から取捨選択し必要な情報を取り出す力の不足が考えられる。正確に文章を読み取る力を高め、必要な情報の取捨選択ができるように指導を図る。</p>
<p>読み取る力 学校全体 都平均 63.9%</p>	<p>読み取る力とは、比較・関連付けて読み取る力である。</p> <p>読み取る力についての本校児童の平均正答率は、61.9%で、都の平均正答率を2.1%下回った。教科別にみると、都の平均正答率を国語では2.7%、社会では0.8%、算数では1.8%、理科では3.1%と全ての教科において下回る結果となった。</p> <p>特に、都の平均正答率を下回っているのが、理科の「ゴムが物を動かす働きについて、実験1と実験2の結果を比較・関連付けて読み取る」設問である。何を調べるための実験であるのその目的を正確に理解した上で、比較検討するよう指導を図る。</p>
<p>解決する力 学校平均 都平均 50.5%</p>	<p>解決する力とは、意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力である。</p> <p>解決する力についての本校児童の平均正答率は、49.9%で、都の平均正答率を0.6%下回った。教科別にみると、都の平均正答率を社会では0.8%、理科では0.7%上回ったが、国語では0.9%、算数では3.0%した回る結果となった。社会、理科においても都の平均正答率を上回ってはいるものの、正答率は高いとは言い難い結果である、特に正答率が低かったのは算数の「比較量と基準量から割合を求める」設問である。ある特定の量に着目させ、線分図や表などに数量関係を表わし、立式することができる指導を図る。</p>

## ● 教科別結果分析

<p>国語 学校平均 都平均 66 74 53 % %</p>	<p>国語における本校児童の平均正答率は、64.3%で、都の平均正答率を3.2%下回っている。観点別にみると、都の平均正答率を、関心・意欲・態度では0.9%、技能では2.3%上回っているが、思考・判断・表現では2.5%、言語についての知識・理解では7.1%、読む能力では6.4%と下回っている。</p> <p>特に、文中における主述の関係を理解する問題においては、都の正答率が38.9%に対して、本校児童の正答率は16.0%と大きく下回っている。主語と述語の意味や関係を理解するためには、教師が主語を規定して、述語を問う、逆に述語を規定して、主語を問う、主語と述語を一緒に問うなど、児童の実態に応じた段階的な指導を行うことが効果的である。また、文中における修飾と被修飾との関係を理解する問題においても、正答率が18.0%にとどまり、都の平均よりも7.0%下回った。修飾されることにより語句の内容や特徴がより具体的に分かっていくというよさに気付かせられるような学習活動を行う必要がある。</p>
<p>社会 学校平均 都平均 77 64 16 % %</p>	<p>社会における本校児童の正答率は75.2%で、都の正答率を2.3%上回っている。観点別にみると、都の正答率を技能は0.8%下回っているものの、関心・意欲・態度で、0.7%、思考・判断・表現は6.2%、知識・理解は4.4%上回り、改善が見られた。</p> <p>技能に関しては、学習の際に、資料からどんなことを読み取ることができるのかを考え、説明をしたり、他教科でも表やグラフの読み取りをする活動を取り入れたりすることで、どの資料に着目すべきか取捨選択する力を身に付けさせていく必要がある。</p> <p>また、都道府県の位置と名称を理解する問題では、都の正答率55.2%に対し、本校の児童の正答率は49.4%と5.8%下回っている。生活の中で分かった都道府県の位置を一つ一つ地図帳で確かめたり、伝統や文化などの特色について調べたりする活動を取り入れていく必要がある。</p>
<p>算数 学校平均 都平均 66 33 74 % %</p>	<p>算数の問題における本校児童の平均正答率は63.4%で、都の平均を0.3%下回っている。観点別にみると、都の平均正答率を技能で3.0%下回り、数学的な考え方で0.6%、知識・理解で2.5%上回った。</p> <p>問題ごとに都の平均と比べると、「数量や図形についての知識・理解」の平面や空間の位置に関する問題は、平均しておよそ10%上回っているが、積や商の大きさの問題では、10.8%下回っている。計算を正しく行うだけでなく、見当をつけさせてから計算をする習慣を身に付けさせる必要がある。</p> <p>また、「数量や図形についての技能」では、少数や分数の計算は、およそ4%下回っている。中でも、少数×少数の計算は、11.7%下回っている。計算に躓きのある児童には、計算の意味を確実に理解させる必要がある。東京ベーシックドリル等を用い取り組み、定着を図る。導入時に興味関心をもたせながら、児童一人ひとりの理解度を把握する必要がある。</p>
<p>理科 学校平均 都平均 67 90 41 % %</p>	<p>理科における本校児童の平均正答率は、70.1%で、都の平均正答率を0.7%上回った。観点別にみると、関心・意欲・態度で、0.8%、思考・判断・表現では1.7%、技能では0.2%、知識・理解で0.1%、都の平均正答率を上回った。</p> <p>知識・理解の「電気を通す物」は都の平均を13%上回っているものの正答率は34%であり、「磁石に付く物」との違いを理解させる必要がある。思考・表現の「予想される実験結果」は都の平均を8.2%上回り、予想→実験・観察→考察という、科学的な言葉や概念を適切に使って考えさせる学習活動を今後も続けていくようにする。</p> <p>都の平均を下回った数問のうちでは「昆虫の体のつくり」「乾電池とモーター」「沸騰」と、知識・理解の問題がやや多い。観察・実験を通して、実感を伴った理解をさせていくようにする。</p>